

# 黒部市津波ハザードマップ

## 保存版

このハザードマップは、黒部市に甚大な被害をもたらすおそれのある津波を想定し、浸水が予測される区域を示したうえで、津波避難場所や標高などの情報を掲載したマップです。各家庭で避難先や避難経路を記入し、津波からの避難に備えてください。

### 地震発生!!

地震(強い揺れ、長時間の揺れ)の対応

- ・落ち着いて身を守る
- ・火の始末
- ・出口の確保



津波避難ビルや津波避難場所等への避難

揺れがおさまったら状況を確認し、**すく**に津波避難ビルや津波避難場所等の高い場所(高台)へ避難する。**立ち退き避難をする時間がない場合は**、自宅や近くの堅かな非木造建物の2階以上へ避難するなどの行動を取る。

地震直後に逃げる地域の「津波避難場所」等は…

※津波は警報等の発令より早く到達する場合がありますので、すく避難行動を取る。



津波情報を入力

安全な場所で防災行政無線、ラジオ、テレビ、携帯電話などから情報を入力する。(情報伝達経路を確認しておきましょう)



自宅または避難所へ移動

津波警報が解除されたら、一時避難した場所から自宅または指定避難所に移動する。

家族が待ち合わせる「避難所」は…



津波情報を入力

自宅や周辺が安全であれば、自宅で生活し、安全が確認できなければ指定避難所で生活する。

## 津波に備える(安全に避難するための準備)

津波が到達するおそれがあるときは、できるだけ早く高いところへ逃げる必要があります。避難場所は、その時どこにいるかにより異なるので、「自らの安全を、自らが守る(自助)」ため、家族でそれぞれが逃げる場所を話し合っ、以下の手順でハザードマップに必要な事項を記入し、「我が家のハザードマップ」を作りましょう。そして、情報収集の方法について覚えておきましょう。**自助(各家庭で話し合い、自分たちの力で行動(避難)すること)**

### 「我が家のハザードマップ」を作りましょう

このハンドブックを使って家族で話し合い、以下の手順で「我が家のハザードマップ」を作りましょう。津波避難所や避難経路は、いくつか考えておくといいです。

- 1) 自宅や普段よくいる場所の位置を探して印をつける**
  - 津波避難ビルや津波避難場所は、一時的に津波からの安全を確保する場所です。1の場所からできるだけ近い場所を探しましょう。
  - ・津波避難ビル  津波避難場所  ハザードマップと一覧表に場所と名前を示しています。
  - ・標高も参考にしましょう。
- 2) 1の場所から速やかに移動できそうな「津波避難ビル」や「津波避難場所」等に印をつける**
  - 津波が来たときにどこにいるかによって、避難する場所が変わります。自宅のほか、普段よくいる場所(学校・仕事先・遊び場など)についても調べておきましょう。
- 3) 避難所に印をつける**
  - 避難所は災害時の避難、救援・救護、情報の拠点となる場所です。自宅が被災して帰宅できない場合や自宅周辺の安全が確認できないときには一時的な避難生活の場所となります。
  - ここで印をつけるのは、家族が待ち合わせる避難所です。
- 4) 避難経路を考える(1~2、2~3へ線を引く)**
  - 安全と考えられる避難経路を記入しましょう。
- 5) 実際に避難経路を歩いて確認する**
  - 1~4で考えた避難経路を実際に歩いて、確認しましょう。
  - ・避難経路の道幅や危険なブロック塀の有無などの周辺の様子
  - ・避難にかかる時間など
- 6) 「津波避難場所」等や「避難所」を表紙に記入する**

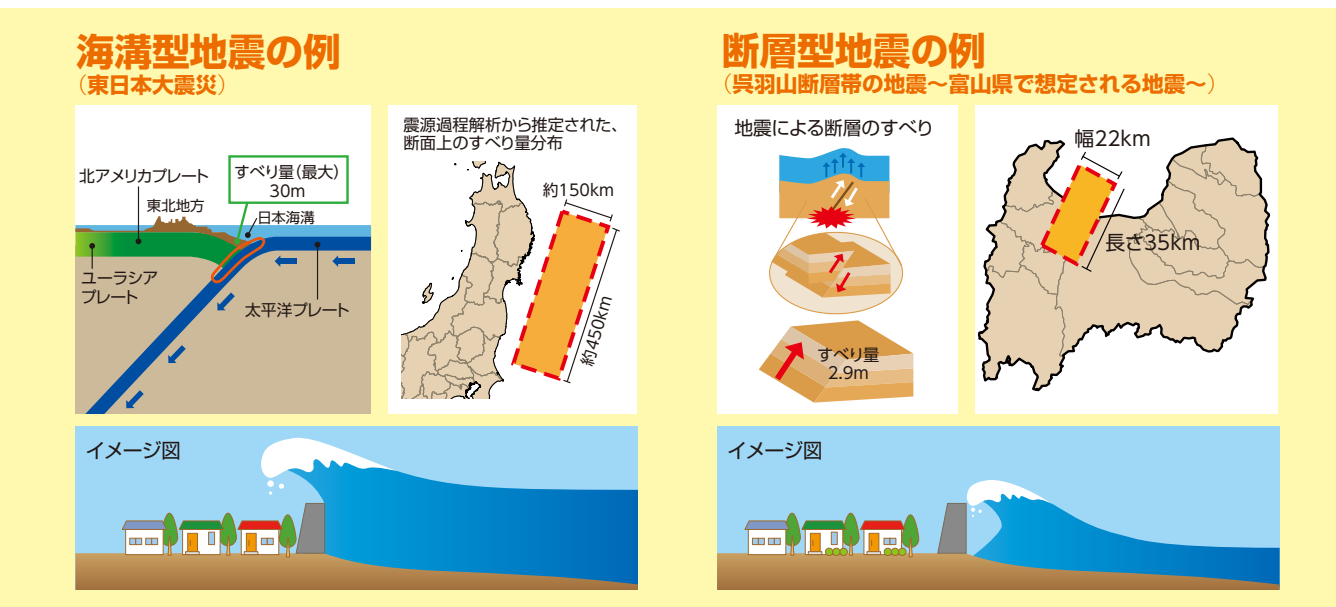
**注意**

実際の津波発生時には、予想される浸水より範囲が広がることや、浸水が深くなる場合があります。あらかじめ決めた避難経路で安心せず、避難する際は、周囲の状況に気を配りましょう。

## 津波の基礎知識・特徴について

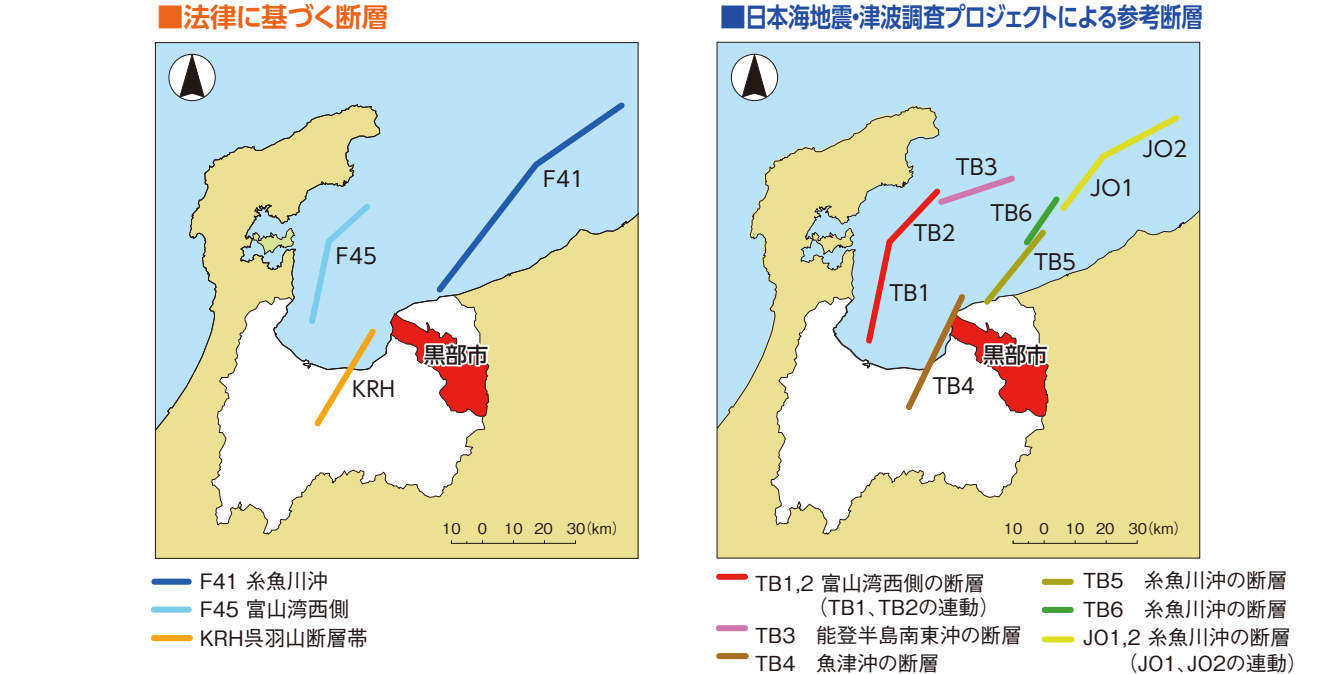
### 太平洋側と日本海側の津波の違い

太平洋側	太平洋側で発生する海溝型地震による津波は、一般的に、地震により隆起する地盤の高さや広さも大きいことから、広範囲にわたって発生し、その高さも高く、継続時間も長くなる傾向にあります。
日本海側	富山県で想定される断層型地震による津波は、海溝型地震にくらべて、一般的に地震により隆起する地盤の高さや広さが小さいことから、その発生範囲が狭くなり、高さは低く、継続時間も短くなる傾向にあります。



### 富山県で想定される津波の概要

このハザードマップに示す津波浸水想定は、富山県が平成29年2月に公表した津波シミュレーション調査結果における「法律に基づく津波浸水想定の対象断層(3断層)」と「参考に調査した断層(日本海地震・津波調査プロジェクト)(6断層)」による津波を想定したものです。



### 想定にとらわれない。「バッファゾーン」とは?

津波の浸水想定は、「法律に基づく断層」において一定の条件に基づく津波を想定したものです。地震の規模や震源の位置等が異なる場合には、浸水想定区域の外側の地域においても浸水する可能性があります。想定にとらわれないで、状況に応じた早めの避難ができるよう備えましょう。

### 富山県で想定される津波の特徴

- 浸水深5mを超える区域は、沿岸から概ね10m以内で、沿岸のごく一部の地域に限られる。
- 津波水位は、入善町の10.2mが最高(法律に基づく津波浸水想定の富山湾西側断層(F45))
- 最高水位は第1波又は第2波で、その後、急激に減衰する(継続時間が短い)。
- 海面が変動を開始する時間が全般的に早く、最高津波の到達時間が早い地域もある。

【参考】過去に富山県に襲った津波

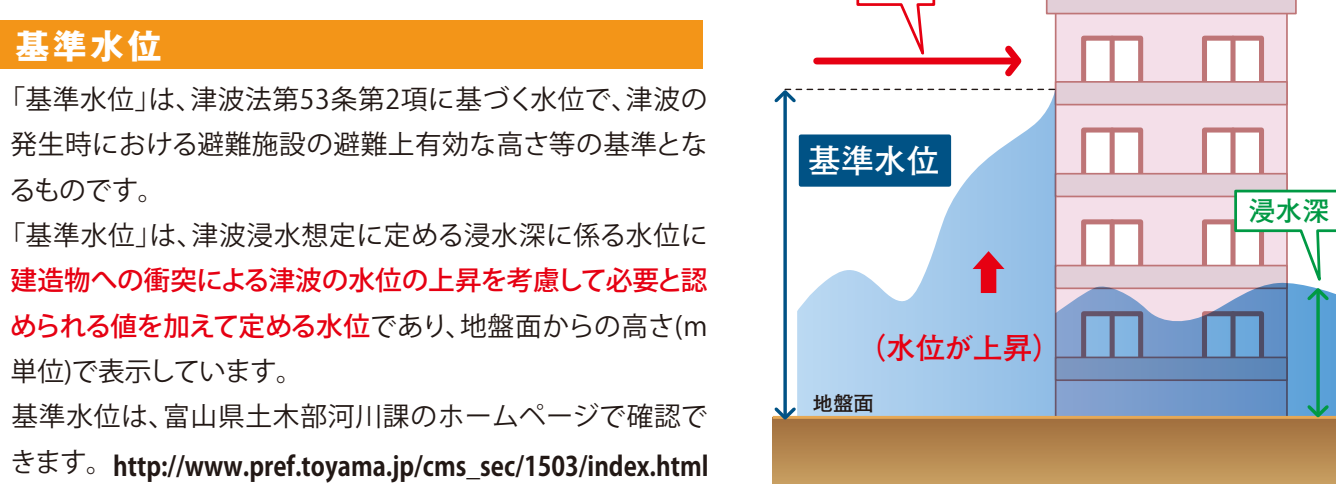
発元年	地震の名称	地震規模	富山県での記録(被害報告なし)
1833年	山形県沖	M7.8	氷見2m
1964年	新潟	M7.5	伏木60cm、魚津56cm、富山48cm、富山新港44cm
1983年	日本海中部	M7.7	滑川143cm、富山20cm、高岡19cm、新湊17cm
1993年	北海道南西沖	M7.8	富山新港11cm、伏木港11cm、富山10cm

※出典:東北大学防災科学国際研究所等「津波危険データベース」(領略版)

### 津波災害警戒区域・基準水位とは

**津波災害警戒区域(イエローゾーン)**

- ・「津波災害警戒区域」は、津波防災地域づくりに関する法律第53条第1項に基づく区域で最大クラスの津波が発生した場合に、**住民等の生命・身体に危害が生ずるおそれがある区域**。
- ・津波災害を防止するために警戒避難体制を特に整備すべき区域。
- ・警戒区域内に土地利用規制はありません。



## 津波に関する情報伝達

津波警報・注意報の分類と、とるべき行動		とるべき行動	想定される被害
大津波警報(特別警報)	予想される津波の高さ 10m超(10m<高さ)	巨大	沿岸部や川沿いにいる人はただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。
	10m(5m<高さ≤10m)	巨大	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。
	5m(3m<高さ≤5m)	巨大	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生する。人は津波による流れに巻き込まれる。
津波警報	3m(1m<高さ≤3m)	高い	ここなら安全と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう!
津波注意報	1m(200m<高さ≤1m)	表記しない	海の中では、人は早い流れに巻き込まれる。小型船が転覆する。

※気象庁は、津波による災害の発生が予想される場合、地震が発生してから3分以内を目標に津波警報(大津波・津波)または津波注意報を発表します。

### 避難勧告等の発令

状況に応じて、下の伝達手段により避難勧告・避難指示(緊急)が発令されます。

<b>避難勧告</b> ・津波注意報が発せられ、市長が必要と認めた場合	<b>避難指示(緊急)</b> ・津波警報又は大津波警報が発せられた場合 ・震度4以上の地震を感じたが、何らかの原因により津波警報等が伝達されない場合
--	---

### 情報の入手方法

<b>防災行政無線</b> 屋外拡声子局(市内40箇所)・防災ラジオ・個別受信機より自動放送	<b>テレビ</b> みらいチャンネル(9ch)の緊急し字放送等	<b>携帯電話</b> 携帯電話会社の緊急情報提供システム(エリアメール、緊急速報メール)の送信、特設音でお知らせ	<b>メール</b> 緊急情報メール(登録制)の送信
<b>ラジオ</b> ラジオオニュー(76.1MHz)への緊急割り込み放送等	<b>ホームページ</b> 市ホームページのトップページに掲載	<b>広報車</b> 広報車による警戒広報、避難広報	

## わが家の耐震化

### 住宅耐震改修支援

震度6弱になると耐震性の低い木造建物は倒壊が始まります。津波から避難と併せて地盤への備えとして、自分と家族の身を守るため、自宅の耐震化に取り組みましょう。

市では木造住宅の耐震改修を行う場合、県と連携してその経費の一部を補助します。住宅のリフォームを考えている方は、ぜひ本制度をご活用ください。

①対象となる住宅  
 次の要件を満たすものが対象となります。  
 (1) 木造一戸建て、階数が2階建て以下のもの。  
 (2) 建物の過半が昭和56年5月31日以前に着工して建てられたもの。  
 (3) 在来軸組工法によるもの。

②住宅耐震診断  
 (一社)富山県建築士事務所協会を窓口として耐震診断の県費用補助があります。協会までご相談ください。  
 個人負担 2,000円～6,000円

③住宅の耐震改修工事についての助成制度  
 耐震診断で耐震改修が必要と判断された建物について、所定の条件を満たす工事を行った場合、工事費の一部を助成する制度があります。  
 工事着手前に申請する必要がありますので、添付書類を添えて補助金交付申請書を市都市計画課へ提出してください。  
 補助金は耐震改修に要する費用の3分の2(上限60万円)です。

【問い合わせ先】  
 ・耐震診断に関すること (一社)富山県建築士事務所協会 TEL.076-442-1135  
 ・耐震改修工事に関すること 黒部市都市計画課 TEL.0765-54-2647

### 緊急情報メール 登録方法

市では、気象情報をはじめとして防災に関する情報をメール配信しています。登録方法は、二次元コードを読み取っていただくか、登録用メールアドレス(k.bousai@city.kurobe.toyama.jp)へ空メールを送信してください。しばらくすると「仮受付のお知らせ」メールが届きますので、表示画面に従い登録手続きを行ってください。  
 ※迷惑メール対策等が設定されている場合、配信アドレス(kurobe.bousai@city.kurobe.toyama.jp)の受信設定をお願いします。

## 東日本大震災が残した教訓

「災害が起きても自分だけは大丈夫」と思っていませんか?東日本大震災では、死者・行方不明者あわせて2万人近くの人が逃げ遅れ、津波の犠牲者となっています。下記のような教訓を参考に、すぐに避難する心構えが大切です。

- 教訓1 「率先避難者」になる!**  
 強い揺れや長い時間の揺れを感じて揺れが収まったら、声を掛け合って、すぐ避難する。
- 教訓2 「一刻も早く逃げる」**  
 東日本大震災の死因の9割以上は水死です。津波から生き延びるには迅速な避難以外に方法はありません。
- 教訓3 「津波でんでんこ」(東北地方の言い伝え)**  
 家族が互いに逃げてくれるはずだと信頼して、それぞれが「でんでんばらばら」で逃げること。
- 教訓4 避難行動要支援者(お年寄り等自力避難ができない人)に配慮**  
 避難にかかる時間には個人差があります。災害時要援護者の避難ルールをご家庭や地域で周知し、できる範囲で地域の要援護者の手助けをしましょう。
- 教訓5 各自の状況判断で避難を!**  
 浸水想定範囲でないからと安心せず、また、あらかじめ決めていた避難所・避難経路等で安心せず、周囲の状況を見ながら自分で判断してできるかぎり高く、速くへ避難しましょう。
- 教訓6 液状化被害に注意**  
 海岸や川沿いの比較的地盤がゆるく(締め固まっていない)、地下水位が高い砂地盤などでは、液状化現象が起こる可能性がありますので、地震発生時は液状化被害にも十分ご注意ください。

### 液状化とは…

地盤は、地震により強い振動が加えられると砂粒子の支え合いが崩れて軟弱化し、液状体になります。このような現象を「液状化現象」と言います。この現象により、建物や電柱が傾いたり沈んだり、地中の下水管やマンホールの浮き上がりなどの被害が発生します。

## 非常持ち出し品リスト

<b>非常持ち出し品リスト</b>	<b>備蓄品リスト</b>
<b>非常食</b> <input type="checkbox"/> 水(1人1日あたり3リットル) <input type="checkbox"/> 食料(乾パンなど最低1食分の携帯食) <b>衣類</b> <input type="checkbox"/> ヘルメット <input type="checkbox"/> マスク <input type="checkbox"/> メガネ <input type="checkbox"/> コンタクトレンズ <input type="checkbox"/> 雨具 <input type="checkbox"/> 下着・靴下 <input type="checkbox"/> ティッシュ・タオル <input type="checkbox"/> 生理用品 <input type="checkbox"/> おむつ <b>防災用品</b> <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ <input type="checkbox"/> 懐中電灯 <input type="checkbox"/> 乾電池 <input type="checkbox"/> 携帯電話の充電器 <input type="checkbox"/> アルミ製保温シート <input type="checkbox"/> ポリ袋 <input type="checkbox"/> レジャーシート <input type="checkbox"/> ロープ <input type="checkbox"/> ビニール袋 <input type="checkbox"/> 軍手 <input type="checkbox"/> 笛 <b>救急医療品</b> <input type="checkbox"/> 常備薬(持病をお持ちの方は病院から処方された薬) <input type="checkbox"/> 簡単な救急セット <input type="checkbox"/> ウェットティッシュ <b>貴重品</b> <input type="checkbox"/> 現金 <input type="checkbox"/> 健康保険証 <input type="checkbox"/> (または保険証のコピー) <input type="checkbox"/> 通帳・印鑑など <input type="checkbox"/> その他(家族の写真)※家族とはぐれた時の確認用	<b>食料など</b> <input type="checkbox"/> 水(1人あたり9リットル程度) <input type="checkbox"/> 食料(缶詰やレトルト食品) <input type="checkbox"/> 缶切り・栓抜き・ナイフ <input type="checkbox"/> 紙皿・割り箸・ラップ・アルミホイル <input type="checkbox"/> 車上コンロ・ガスボンベ <input type="checkbox"/> 給水用ポリタンク <b>衣類など</b> <input type="checkbox"/> 下着類 <input type="checkbox"/> 衣類 <input type="checkbox"/> 防寒着 <input type="checkbox"/> 毛布または寝袋 <input type="checkbox"/> 使い捨てカイロや解熱シブ <b>日用品</b> <input type="checkbox"/> ライター・ろうそく <input type="checkbox"/> 乾電池 <input type="checkbox"/> トイレ用ペーパー <b>貴重品</b> <input type="checkbox"/> パソコンデータのバックアップ <b>定期的に入れ替え、買い足すなど点検しましょう</b>

<b>乳幼児のいる家庭</b> 粉ミルク・ほ乳びん・おむつ・離乳食・スプーン・おんぶひもなど	<b>妊婦のいる家庭</b> 脱脂綿・ガーゼ・さらし・T字帯・新生児用品・母子手帳など
<b>要介護者のいる家庭</b> おむつ・ティッシュ・補助具の予備・常備薬・障害者手帳など	<b>家族構成に合わせた準備を</b>

避難のときに持ち出す荷物は必要最小限にし、場所を決めて持ち出し袋にまとめておきましょう。また、内容を定期的に確認しておきましょう。